

## 安曇野市特別職報酬等審議会 会議概要

- 1 審議会名 安曇野市特別職報酬等審議会
- 2 日 時 平成29年8月21日 午前10時から午前11時45分まで
- 3 会 場 安曇野市市役所本庁舎 2階 会議室201
- 4 出席者 齊藤会長、清澤会長代理、太内委員、岡村委員、木下委員、黒岩委員、  
中野委員、長崎委員、馬場委員
- 5 市側出席者 堀内総務部長、長崎職員課長、洞職員担当係長、白澤主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 2人
- 8 会議概要作成年月日 平成29年8月25日

### 協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
  - (1) 開 会 (清澤会長代理)
  - (2) あいさつ (齊藤会長)
  - (3) 議事
    - ① 前回の審議内容について
    - ② 追加資料について
    - ③ 諮問事項に対する検討について
  - (4) その他
  - (5) 閉 会 (清澤会長代理)
- 2 審議概要
  - ① 前回の審議内容について (事務局より説明)  
⇒質疑等、特になし
  - ② 追加資料について (事務局より説明)
    - ・議員の兼業は、当該地方公共団体と請負関係を結ばない団体あるいは者は可能か。  
⇒可能である。
    - ・議会会期中、議員の行動はどの程度拘束されるのか。  
⇒本会議、所属する常任委員会は原則参加。休会中については、所属する委員会が開催される場合は出席。
    - ・政務活動費の対象となる経費の総額が分からないと、類似自治体等の金額を参考にするしかない。実態が分かれば教えてほしい。  
⇒議会等に確認をし、次回の資料として報告させていただく。
    - ・議会として調査研究や視察等を行っているが、それでは足りないため政務活動費を使って会派として活動する必要があるということか。  
⇒会派として特に取り組む課題のための視察等も行われているが、議会の視察等に係る予算の割り振りや決算の状況等については次回までに確認して報告する。
    - ・議員削減の目的、大義は何であったのか。単なるコストカットなのか、それとも削減するにあたり1人あたりの議員報酬や政務活動費のアップを意図していたのか。その辺りを理解した上で議論をしないと、意味のある議論に繋がっていかない。
  - ③ 諮問事項に対する検討について
    - ・他の都市と比べるのも結構だが、安曇野市の予算があるので、独自の考え方の中で決めていただきたい。
    - ・税収の中で、議員報酬として充てられる金額がどのくらいかというのが1つの指標ではないか。人口が同規模でも、税収に大きく差があるということがあるので。

- ・前回の議員定数削減は、どのような理由で行われたものなのか。
- ⇒本庁舎建設の関係があり、議員自らがコストを下げていかなければならないという狙いであった。
- ・議員定数の削減と同時に、議員年金についても廃止したが、現状は国民年金だけでは将来的に不安がある。議員報酬を上げる中で、個人で積み立てるといったことも必要ではないか。
  - ・議員報酬は生活給ではなく、任務の対価ということになっているが、現実的には生活給的な部分がある。実際にどのくらいの時間を議員活動に投入しており、これだけ投入しているから兼業などはできないといった理屈がないと、増額に対する理解は得られないのではないか。
  - ・議員定数が人口規模によって考えられているということであれば、今後、人口減少時代に入っていくことを考えれば、議員定数は減っていくと考える。
  - ・安曇野市は合併以降、議員報酬額の検討を行ってこなかった。長野県の改定状況にもあったが、公務員給与が民間と比較して下がっていれば、議員報酬も同時に下げてきている。そのことを考えれば、新たな考え方や資料がない限りは現時点では改定すべきではない。今まで下げるべきものをそのままにしていたので、実質的には増額という考え方。
  - ・民間も給与を上げてきている。若手が議員になれるような体制を作ってあげることも必要ではないか。
  - ・政務活動費は、会派ではなく個人に交付したほうが、使途が明確になるのではないか。

議員報酬については、据え置きという意見が多数を占めた。次回は政務活動費について、追加資料を提示してもらって集中的に議論をしていく。議員報酬については政務活動費の金額との兼ね合いもあるので、次回の議論を加味して補修正をしていく方向で考えている。

【次回：平成29年9月20日（水）午前10時から】